

三郷黒沢川小水力発電所が完成

令和元年12月より、工事を進めておりました三郷黒沢川の水を利用した小水力発電所が完成いたしました。この発電所建設には黒沢川の十分な水量と落差が確保できるとし、候補地として検討が重ねられ、今回の工事となりました。

発電所上流には観光名所としても知られる黒沢の滝があり、安曇野市の南西に位置する黒沢山を源とし、三郷にある住吉神社付近で川の水は伏流水となり、水無川となります。

黒沢川の水は、三郷地域の人々にとっては飲料水や名産のりんごの畑を潤し、とても大切な資源となっています。

黒沢の滝を目指して林道を上がると約150年前に修験者の道場として開山されたとされる黒沢不動尊があります。現在では水への感謝と共に毎年5月には地元の方たちによる例祭が行われます。

発電所は、発電設備を備える建屋と、取水口から水を運ぶ埋設された鉄管と

からなり、発電所建屋内にある設備の発電量は1時間に199kw、一日約4700kwで、1秒間に276ℓの水を利用して発電し、一般家庭の平均的な一日の消費電力の300軒分を賄えます。

建屋の1.3km上流にこの発電に使用される水の取水口があり、全水量の一部(一定量355ℓ/秒)を取り入れて、埋設した450mmの鉄管で各用水路に分配しながら、建屋まで運びます。

黒沢の滝へ続く林道の幅は狭く上り坂が続き、冬場においては平地よりもかなり低温となります。この記事を書くにあたり、現場に初めて行ったのですが、雪の下はアイスバーンとなっており、埋設の工事はさぞ大変だった事と想像しました。

発電所は今後何回かの通水試験を実施し、4月1日の本稼働を目指します。地元の方々のご協力のもと、完成の日を迎えられたことを深く感謝申し上げます。



▲発電所建屋



▲地元の方に「お不動様」と呼ばれている黒沢不動尊



▲一定量を発電用に取り入れる取水口



▲発電機 (写真奥が入水口)

ゆたか

vol.12

発行日：2021年3月



山共建設株式会社

創業大正10年

〒399-8102
安曇野市三郷温 3350
TEL. 0263-77-3161
https://www.yamakyo-k.com
✉ kentiku@yamakyo-k.com

山共建設会報誌「ゆたか」

発行日：二〇二一年三月十五日

発行所：山共建設株式会社

発行人：降幡真

印刷所：(株)成進社印刷

電話／〇二六三二二二二〇一

お客様の声

子育て環境に本物を——脳科学的考察

海野 暁光 様 (社会福祉法人州浜会 理事長)

乳幼児に対する調査研究がすすみ、脳内神経ネットワークの形成システムが明らかになるなど、乳幼児の発達に関する様々な知見が深まっています。ざっくりいうと「三つ子の魂百まで」が最新の脳科学により明らかになったということですね。

落語「千両みかん」のマクラに「：船場の御大家あたりになりますと違います。両替屋なんていうような所のぼんぼんの子供に生まれると、こら一両小判やら、二分金やらを、持ち遊びにしますねん、小さい時からおもちゃに小判を、こうやらすんですな、町人というものは、何ちゅう事をする、そやないんで、あややって小判を持ち遊びにさしとくと、いつのまにやら本物とにせ物の見分けがつくんやそうでして、そいうふうにして大きなたら、にせ金を絶対、つかまされな、い、商売人は商売人の知恵が、あつたんやそうです：」

(桂米朝 上方落語大全集) というのがあります。これを脳科学的に考察すると：素人解説ですが：

幼少期には、脳機能ごとに発達する特定の時期(感受性期)があり、この時期に遊びながら小判に触れていると、直感で本物とにせ物の見分けがつくようになるといいます。逆に、この時期を逃すと、その機能を獲得するのが困難になるそうです。例えば、英語の「R」と「L」の発音を聞き分ける能力は、四歳までの言語環境によって決まるというように。



▲開放されている子育てひろば たくさんの触れて遊べる玩具が並ぶ

人間の脳の神経細胞数は、赤ちゃんの頃が一番多く、神経結合(シナプス)が過剰に形成されています。やがて生後の発達過程において、頻繁に刺激が繰り返されたシナプスは、必要な結合として強化され、不要なものは除去されます(※①)。言い換えると、赤ちゃんは、様々な環境に適用する過剰ともいえる高い能力を持って生まれ、生まれた後の環境に合わせて、その能力を強化と刈り込みに調整しているのです。

この高い能力を持つ幼少期になるべく多くの本物に触れる豊かな環境を、となるのは当然の流れで、保育の専

門家は、乳幼児クラスの室内環境を一目するだけで、その施設全体の質を測ることが出来ます。この環境を家庭にも：と思うのですが、現状はそうはいきません。最近の住環境には、本物に似せた新建材があふれています。若い世代にこそ、豊かで温もりのある住環境が必要なのに、この国の住宅事情は全く異なっているようです(※②)。幼児期に本物(呼吸をする素材)と触れることなく、対話することなく、温もりを感じることもなく成人になって：本物が不要なものと除去され：想像したくない未来です。

そこで、縁あって取得した蔵を改修し、子育て広場として開放することにしました。幼少期に、本物に触れる・感じる・対話する機会を少しでも増やしたい。本物に囲まれた中で子育てをして欲しい。乳幼児の発達を学べば学ぶほど、子育ての現状を知られば知るほど、その思いが日増しに強くなったからです。

明治の職人と現代の匠の対話と技の融合により蘇った、本物の息吹と温もりを内包する蔵が、次の百年をゆたかにする事を願っています。

※①偏った早期の幼児教育は、一部のシナプス結合を強める一方、他のシナプスがより多く除去される恐れがあります。この場合、思春期から青年期に精神疾患として表出します。ご注意ください。

※②「育児は母家で、隠居は離れで」提言です。



▲松本市深志 極楽寺ご住職でもあり、子育て支援事業に力を注がれる海野暁光様 昨年11月 土蔵を改修した保育施設が完成

おかげさまで **100周年** 100th Anniversary Since1921



創業一〇〇周年を迎えて

明治23年に旧小倉村（元安曇野市三郷小倉）で木材業を始め、大正10年曾祖父の降幡商次郎が建築請負業「山共組」を設立し、祖父の喜内、父の廣信そして私の代で創業一〇〇周年を迎えることとなりました。これもひとえに皆様方の温かいご支援と激励の賜と、心より感謝申し上げます。

さて、私が一〇〇年の歴史を実感したのは、豊科に事務所を置く長野県建設業協会安曇野支部の壁に掲げられた、歴代の支部長の写真の中に祖父喜内を見つけた時でした。祖父喜内は、私の生まれる前の昭和35年に他界しておりますが、69年前の昭和27年に二代目支部長として務めておりました。そして現在、私が平成30年より第17代支部長の役に就いております。

祖父喜内の写真を前に、就任のあいさつができたことは、とても感慨深いものがあったと思ひ出されます。これからの一〇〇年も、地域の皆様に必要なとされる会社であり続けられるよう、社員一同心を合わせて精進してまいりたいと思います。

今後とも変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役 降幡 真

「あいさつ」

一九六〇年（昭和35年）、山共建設株式会社三代目として父の後を引き継ぎました。31歳でした。その時から今日まで60年間にわたって、時代の激しい変化の中を、多くの方々からのご支援を頂き、今日に至ることができました。只々、感謝の思いで胸が一杯です。

幸いにも、長男と次男の二人が共に私を支え、後を継いでくれておりますので、先ずは安心しております。しかし、先を考えると、厳しい時代の変化の中を、多くの方々のご支援ご鞭撻を頂きながら、社会に役立ち、また社会に必要な企業に成長し続けねばなりません。

どうぞ今後ともご指導の程、よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、皆様の益々のご繁栄とご健勝をご祈念申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

会長 降幡 廣信



我が社の
九曜星のロゴマーク
社員が仲睦まじく、一丸となって社会に役立つことを目指しています。



歳時記

秋 冬

R2年12月 社屋一新

弊社の社屋は昭和59年、現在の新潟県糸魚川市の山中に、ぼつんと取り残されたように建っていた民家を移築し再生したもので、今年で40年が経過としていきます。

風雨に耐えてきた建物は、屋根や外壁は防水能力も衰え雨水が浸透していました。

暖房は石油ストーブで当初のままです。

今回の改修工事では、協会の皆様にお世話になり、窓はペアガラスとなり防音、防寒、防塵に優れ、暖房機能も寒冷地仕様のエアコンで快適な環境のもと、業務できるようにしました。建設に携わっている私たちですが、紺屋の白袴とでもいまいましようか、最近の建設資材や機器の優れた能力を実感しています。



R2年10月 新入社員紹介

昨年10月より仲間入りしました。坪井佳奈と申します。

出身は長崎県です。ご縁あって、長野県へ住むようになって13年。

建設業界に携わって9年になり、学んだ期間を含めると13年目となります。

長野県では、一日に三度の雪かきや、標高1600メートルにある山小屋暮らしなどを経験しました。



昨年はSUP（水上スポーツ）やパラグライダー、陶芸なども経験する機会もあり、長野県での生活を満喫しています。皆さま、どうぞよろしくお願いたします。

R3年4月開園 サンライズキッズ保育園 安曇野園

かねてより弊社の東隣に建設を進めておりました0歳児から2歳児対象の「サンライズキッズ保育園安曇野園」が完成いたしました。



▲まるで、おままとセットのように可愛い手洗器



▲明るく開放的な園舎

通常の業務対象としていない民家や住宅とは勝手が違い、戸惑うこともあったのでは...と思えます。

建物は、外壁の一部に赤色と青色を取り入れて、楽しい雰囲気を感じさせる外観と、大きく出た軒下には、幼児の足にも優しい木製のテラスが設けられ、保育室は床暖房を設置し、一部は畳敷きとなっております。明るい光が差し込み、壁紙はさまざまな動物柄のかわいいプリント。園児の皆さんも楽しく過ごしてくれそうです。安全面でも配慮され、壁面には腰壁クッションを貼り、ドアには指を挟んでもケガをしない戸先クッションが施されているなど、安全性を重視した建物となっております。

園児のみなさん、4月から元気に楽しく過ごしてくださいね。

不動産の仲介・売買はお気軽に
山共建設までご相談ください
☎0263-77-3161 ✉kentiku@yamakyo-k.com